

Oct.ITERO#7:良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、主の出現を慕う^{1/18-24} OL Summary: I.「私は良い戦いを戦い抜き」(IIテモテ4:7a):A.正常なクリスチャン生活は、神の王国の権益のために、サタンと彼の暗やみの王国に敵対して良い戦いを戦うことを含みます。B.パウロは務めがキリストのための戦いであると考えました。それは、祭司の奉仕が兵役、戦いであると考えられたようです。C.「兵士として服務している者はだれも、日常生活の事にかかわってはいません」。これが意味するのは、地上での神の権益のために良い戦いを戦うには、私たちは地上の煩わせるものをすべて一掃する必要があるということです。D.パウロは彼の忠信な同労者であるテモテに、異なる教えに敵対して戦って、神のエコノミーのために戦うように命じました。E.良い戦いを戦うことは、異なる教えに敵対して戦い、恵みの福音と永遠の命に関する使徒たちの務めにしたがって神のエコノミーを完成し、祝福に満ちた神の栄光を現すことです。F.私たちはキリストを人に供給するときはいつも、自分が戦いの中にいることを見いだします。ですから、私たちは神の権益のために戦う兵士であるべきです。G.キリストと召会に関する神の新約エコノミーを教え、宣べ伝えることは、良い戦いを戦うことです。H.その信仰の良い戦いを戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。特に、それは神の具体化としてのキリストのために、またキリストのからだとしての召会のために戦うことです。I.私たちは永遠の命を保持することによって、客観的にだけでなく、主観的にも信仰の良い戦いを戦います。II.「私は...行程を走り終え」(IIテモテ4:7b):A.「私が自分の行程と、主イエスから受けた務めを全う...するためには、自分の命を尊いとは思いません」(使徒20:24)/使徒パウロは、レースを走り終える最後の瞬間になってはじめて、「私は...行程を走り終え」と勝ち誇って宣言することができました。そして彼は、主の出現の時に主によって彼に褒賞が与えられると確信することができました。B.正常なクリスチャン生活は、行程、レースを走ることを含みます。それは神の永遠の定められた御旨にしたがって神のエコノミーを遂行するためです。C.私たちは主が定めた旅路を尋ね求め、忠信にその中を歩み、あらゆる代価を払って、心を尽くして私たちの旅路を継続して、ついには目標に到達する必要があります。D.主が私たちのために定めた旅路はレースであり、私たちはみなそれを走らなければなりません/私たちが救われた後、神は私たちを、直接的に王国を目当てとするレースの中へと入れます/私たちは、自分が走りたい行程を選ぶことはできません。そうではなく、私たちは、神が私たちの前に置いているレースを走らなければなりません。E.私たちは「前に置かれているレースを、忍耐をもって走る」必要があります/私たちは忍耐をもってレースを走り、忍耐をもって反対に耐える必要があり、決してうみ疲れたり、魂が気落ちしたりしてはなりません。F.私たちがクリスチャンレースを走るのは、「私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめ」ることによります/イエスは信仰の創始者、すなわち信仰の創設者、開始者、源、要因です/私たちは他のあらゆるものから目を離すことによって、専一な注意力をもって、イエスをひたすら見つめる必要があります/私たちがイエスをひたすら見

つめるとき、命を与える霊としての彼は、ご自身を、すなわち彼の信じる要素を、私たちに注入します/イエスは信仰の完成者、すなわち、信仰の成就者、完結者です/主イエスは信仰の完結者として、ご自身を信じる要素と能力として私たちの中へと絶えず注入します/私たちが彼をひたすら見つめるとき、彼は天、命、力を私たちに供給し、彼であるすべてを私たちに伝達し、注入します。それによって私たちは地上で天のレースを走り、天の生活をすることができます。III.主の再来が私たちにとって尊いなら、私たちは彼の出現を愛します(慕います)。A.主の出現を愛することと、主ご自身を愛することは、分離することができません。B.私たちは、主が来るのを待ち望んでいるなら、彼の出現を愛する者たちであるべきです。C.主の出現、彼の再臨は、私たちにとって警告、励まし、奨励です/私たちは主の出現を愛する生活をすべきです。このことによって私たちは落胆せず、最後まで忠信であり続けることができます。D.主の出現を愛することは、今の世(時代)を愛することと相対します/時代は、サタンのこの世の体系の一部分、一区分、一面です。それはサタンによって利用されて、人々を強奪し占有し、神と神のご計画から彼らを引き離します/IIテモテ4:10で「今の世(時代)」は、私たちを取り囲み、引き寄せ、誘惑するこの世を指しています。私たちは今の時代と接触しない限り、この世と接触することはできません/デマスは今の世を愛しました。今の世が魅了することのゆえに、彼は使徒パウロを捨てました/ローマ12:2でパウロは、私たちがこの時代にかたどられるのではなく、思いが新しくされることによって造り変えられるように勧めています/2節の「この時代」は、この世の現在の、実際的な部分を示しています。それはからだの生活に対立し、からだの生活に置き換わります/この時代にかたどられることは、今の時代の現在の流行を取り入れることを意味します。造り変えられることは、有機的な要素が私たちの存在の中へと造り込まれるようにし、こうして内側の新陳代謝的な変化を生み出します/今の時代は、神のみこころである召会に反対しているので、私たちはそれにかたどられてはなりません/私たちはキリストのからだの中に生きようとするなら、今の時代に従ったり、この時代にかたどられたり、それに同形化されたりしてはなりません/私たちは今の時代を愛するなら、この世の側に付き、主の出現を愛するなら、主の側に付き、主の権益のために主と共に戦います。E.主を愛し、主の来臨を待ち望み、主の出現を愛する者たちは、勝利を得ます。F.主の出現を愛することは、私たちが主を愛しており、今日、主のために生きていることの証拠です。ですから、それはまた、私たちが主の褒賞を受けるための条件となります。G.主の出現を愛することは、私たちが正常な生活をすべきでないということの意味するものではありません。そうではなく、私たちは主の出現を愛すれば愛するほど、今日ますます正常な生活をする必要があります。H.主イエスを愛し、彼を私たちの命とし、彼を生き、彼を大きく表現する者たちとして、私たちは彼の来臨を待ち望み、彼の出現を愛するべきです。このことは、私たち(彼の喜びの中に入り、救われて主の天的王国の中へと入り、義の冠を受けることを望んでいる者たち)の心の願い、私たちの生活となるべきです。

CP1:勝利者になるために、良い戦いを戦い抜き、行程を走り通し、その信仰を守り通す

OL1:「私は良い戦いを戦い抜き」(IIテモテ4:7a)。正常なクリスチャン生活は、神の王国の権益のために、サタンと彼の暗やみの王国に敵対して良い戦いを戦うことを含みます。IIテモテ2:3 キリスト・イエスの良い兵士として、私と苦難を共にしなさい。4 兵士として勤務している者はだれも、日常生活の事にかかわってはいません。それは、徴兵した者を喜ばせるためです。

その信仰のために戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。特に、それは神の具体化としてのキリストのために、またキリストのからだとしての召会のために戦うことです。

Iテモテ 6:12 の永遠の命は神聖な命、神の非受造の命であり、それは永遠です。永遠とは、神聖な命の時間の要素よりも、その性質を示します。私たちはクリスチャン生活において、特にクリスチャンの務めにおいて、その信仰の良い戦いを戦うために、この神聖な命を保持する必要があります。私たちの人の命に信頼するものではありません。... Iテモテにおける召会に関する神の経綸をもたすために、IIテモテにおける召会の衰退の過程に立ち向かうために、テトスにおける召会生活の中で良い秩序を維持するために、この命が必要条件です。

神の人は、義、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めるべきです。彼は神の新約エコノミーのために戦い、永遠の命を保持すべきです。このすべての事柄は新約の本質的な面です。これに反して、啓示録 13章の獣や啓示録 20章の火の池は、この本質的な面と比較することはできません。私たちは今日、その信仰の良い戦いを戦わなければなりません。これは、私たちが神の具体化としてのキリストのために、またキリストのからだとしての召会のために、戦わなければならないことを意味します。さらに、私たちは永遠の命を保持することによって、客観的に戦うだけでなく、主観的にも戦わなければなりません。私たちはこの命から離れて何も行なうべきではありません。私たちは夫あるいは妻に対して、また子供たちに対して、天然の命によってではなく、永遠の命によって語るべきです。

OL2:私たちはキリストを人に供給するときはいつも、自分が戦いの中にいることを見いだします。ですから、私たちは神の権益のために戦う兵士であるべきです。

OL3:キリストと召会に関する神の新約エコノミーを教え、宣べ伝えることは、良い戦いを戦うことです。

OL4:その信仰の良い戦いを戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。特に、それは神の具体化としてのキリストのために、またキリストのからだとしての召会のために戦うことです。Iテモテ 1:3 私が...あなたに勧めたように、あなたは...ある人たちが異なる事を教え...4...ないように命じなさい。...そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミーではなく、...

18 あなたに関して前になされた予言にしたがって、良い戦いを戦うようと、私はこの命令をあなたに託します。

OL5:私たちは永遠の命を保持することによって、客観的にだけでなく、主観的にも信仰の良い戦いを戦います。

適用:新人及び青少年・大学生編

聖書は、クリスチャン生活は戦いであると言っている。

ます。信者はからだの感覚を持ち、からだの肢体との組み合わせの中で、からだの建造のために生活し、奉仕します。しかし、一人一人の信者が勝利者であるのか、敗北者であるのかは個人の問題です。マタイ 24:40 その時、二人の人が畑にいと、一人は取られ、一人は残される。41 二人の女がうすをひいていと、一人は取られ、一人は残される。一緒に働いていても、一人は勝利者となり、隣のもう一人は敗北者となり得るのです。勝利者になるために、あなたは自分に与えられた環境で、良い戦いを戦い抜く必要があります。

IIテモテ4:7 私は良い戦いを戦い抜き、行程を走り終え、その信仰を守り通しました。FN「良い戦いを戦い抜き」:正当なクリスチャン生活は、三つの面を持っています。①神の王国の権益のために、サタンと彼の暗やみの王国に対抗して良い戦いを戦うこと、②神の永遠の定められた御旨にしたがって、神のエコノミーを遂行するために、レースを走ること、③神の分与の中の神聖な豊富にあずかるために、信仰を保つことです。このように戦うことで、パウロは私たちのために適切な模範を示しました。

Iコリント1:24 召されている者には、ユダヤ人にもギリシャ人にも、キリストは神の力、また神の知恵です。FN「キリストは神の力、また神の知恵」:使徒たちが宣べ伝えた十字架につけられたキリストは、神の力、また神の知恵です。知恵は計画し、定めるためです。力は計画され、定められたことを遂行し、成就するためです。神のエコノミーの中で、キリストは知恵であり力です。

例えば、学生の本分は勉強です。あなたは主の証しと福音の宣べ伝えのために勉強をする必要があります。しかし、勉強の計画を立てても、それを実行する力がありません。この時、キリストをあなたの力と知恵として経験することができます。あなたは、「おお主よ、キリストは、私にとって神の力、また神の知恵です。主の証しと福音のために、学生の今、勉強においてキリストを力と知恵として経験させてください。また、理解できない時には、諦めずに主の御名を呼び求めます。そして、成績を徐々に上げて行けますように。私は勤勉に勉強することで、学生時代の良い戦いを戦い抜きます」と祈ってください。世の中の人は自分の将来のためだけに勉強しますが、あなたは畏れる霊を持って、自分のためではなく、主の証しと福音のために、勤勉に勉強してください。そうすれば、あなたの将来も祝福されます。

イザヤ11:2 そして、エホバの霊が彼(キリスト)の上にとどまる。それは、知恵と聡明の霊、助言と勢力の霊、エホバを知る知識とエホバに対する畏れの霊である。

あなたは若い時から、自分の霊に戻り、主イエスの御名を呼び求めて、思いを霊に付けて、①知恵の霊、②聡明の霊、③助言の霊、④勢力の霊、⑤エホバを知る知識の霊、⑥エホバを畏れる霊を享受してください。祈り:「おお主イエスよ、正常なクリスチャン生活は、神の王国の権益のために、サタンと彼の暗やみの王国に敵対して戦うことを含みます。良い戦いを戦い抜くために、主の御名を呼び、自分の罪を告白し、思いを霊に付けて、知恵と聡明の霊、助言と勢力の霊、エホバを知る知識とエホバを畏れる霊を経験し、享受します」。

CP2: 主が各自に定められた旅路を理解し、献身して忠信に最後までその中を走り通す

OL1:「私は...行程を走り終え」(IIテモテ4:7b)。 **OL2:**「私が自分の行程と、主イエスから受けた務めを全う...するためには、自分の命を尊いとは思いません」(使徒20:24)。

クリスチャン生活において最も重要な事は、主が定められた旅路を尋ね求め、忠信にその中を歩むことです。今日の信者たちの間のあわれな現象は、多くの人が、主が彼らのために定められた旅路を見だしていないということです。ある人は、たとえそれを見だしても、その中を歩みません。こういうわけで、彼らの生活は非常に多くの霊的な死、憂うつさ、規制に満ちており、またこういうわけで、神の働きには非常に多くの衝突と議論があるのです。私たち一人一人にとって最も重要な課題は、静まり、忍耐し、祈り、**献身し**、服従して、自分自身を神の御手の中に置き、心から彼の導きを尋ね求めることです。私たちは進んで彼に服従し、ただ彼のみこころにしたがって行動すべきです。私たちは、彼が私たちのためにあらかじめ定めてくださった旅路を、私たちに明らかにしてくださいと祈るべきです。この後、私たちはあらゆる代価を払って、心を尽くしてその中を歩むべきです。

OL3: 私たちがクリスチャンレースを走るのは、「私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめる」(ヘブル12:2)ことによります。イエスは信仰の創始者、すなわち信仰の創設者、開始者、源、要因です。詩27:4 私は一つの事をエホバに願いました。私はそれだけを求めます。私の命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを。

神は私たちの前に王国を置き、私たちに走るべきレースを与えてくださいました。このレースの最後に私たちは、自分が失敗したのか勝利を得たのかを見るでしょう。勝利者は主と共に王として支配しますが、失敗した者は救われてはいても、王国の栄光とは何の関係もないでしょう。レースはすでに用意されており、走ろうとする者は、「あらゆる重荷と、いとも容易にまといつく罪をかなぐり捨て」(ヘブル12:1)なければなりません。レースを走ることには、二つの重要なことがあります。第一に、私たちはあらゆる重荷を捨てなければなりません。第二に、私たちは罪をかなぐり捨てなければなりません。レースを走る者は、いとも容易にまといつく罪とあらゆる重荷を捨てるだけでなく、前に置かれているレースを、忍耐をもって走るべきでもあります。なぜ忍耐をもってなのでしょう？なぜなら、褒賞は、レースの最初に与えられるのでもなく、またレースの途中で与えられるのでもないからです。そうではなく、それはレースの最後に(まさに最後の一步において)与えられます。私たちは最初によく走るかもしれませんが、また途中もよく走るかもしれませんが、終わりに必ずしもよく走るとは限りません。最初に勝利を得て、途中で勝利を得て、最後にも勝利を得ることが、勝利を得ることとされます。最終点に着くまでは、私たちが褒賞を得ることを保証することはできません。

私たちがそのようなすばらしい、すべてを含む方としての彼をひたすら見つめるなら、彼は天、命、力を私たちに供給し、彼であるものすべてを私たちに伝達し、注入して、私たちが天のレースを走り、地上で天の生活をするようにしてくださいます。

適用:ビジネスパーソン・大学院生編

あなたは主があなたに定めた旅路を尋ね求めて、「おお主イエスよ、私はあなたに召され、今ここにいます。あなたの私に対する定められた行程を示してください。それは、私が忠信にその中を歩むためです。私はあなたの奴隷ですので、主人の意志を忠信に実行します」と祈ってください。まず、自分の行程を理解してください。その後、主に対して「アーメン!」と言い、定められた行程の中に留まり、その中を歩むために献身してください。

もし行程を理解しても、献身せず、それを実行しなければ、内側と外側が一致しないので、霊的な死と憂鬱さで満たされるでしょう。

献身の根拠— Iコリント 6:19 それとも、あなたがたの体が、内にある聖霊の宮であることを知らないのですか？ この聖霊は、あなたがたが神から受けたものであって、あなたがたは、自分自身のものではないのです。20 なぜなら、あなたがたは代価をもって買い取られたからです。ですから、あなたがたの体において、神の栄光を表しなさい。**献身の動機**— IIコリント 5:14 なぜなら、キリストの愛が私たちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。15 そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身ではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。

献身の意義— ローマ 12:1 あなたがたの体を、神に喜ばれる、聖なる、生きた犠牲としてささげなさい。それが、あなたがたの理にかなった奉仕です。**兄弟の証し:** 私は大学一年の春に救われました。二回生になってから積極的に福音を伝え始めました。召会が行っていた月に一回の福音集会の週は、毎日祈り、福音集會に友人を誘いました。しかし、その週が終わると怠惰な生活に戻ってしまいました。このような矛盾した生活をしていたので、福音の週以外は内側には常に葛藤があり、悩みがありました。三回生の冬、台湾召会訪問に行きました。台湾の三重市で献身のメッセージを聞きました。「からだの生活のために献身すれば、仮にあなたがそれを忘れても、主は覚えておられます」と言われたことを今でも覚えています。その夜、台中市の集会所で、私は聞いたことに従って献身し、「私はここで喜んで自分自身と私の全生涯を捧げます。仮に、私がこの献身を忘れても、あなたは覚えておられることを感謝します。私が忘れた時、あなたが私を呼び覚まして下さい。私は召会を建造して、あなたを喜ばせたいです」と祈りました。この時、主の強い臨在を感じました。この献身の後、内側と外側の矛盾が無くなり、内側が明るく、透明になりました。献身の後、内側の矛盾と悩みがなくなり、徐々に前進し始めることができました。その後も、献身を忘れて弱くなることはありませんでしたが、その都度、憐れみを受けることができたのは、主がこの献身を思い起こさせて下さり、主を見上げて、献身を更新することができたからだだと思います。明らかに、大学三回生の時の台中での献身が転換点となりました。救われた時、私の人生の負のスパイラル(連鎖反応)は終わりました。からだの建造のために献身した時、正のスパイラルが始まりました。「主よ、あなたを見上げて、最後まで自分の行程を走り終えることができますように!」

CP3:主の再臨は、信者に対する警告、励まし、奨励である。神・人の生活を訓練し、神に従って牧養して、主の再臨を待ち望み、勝利者となる

OL1:主の再来が私たちにとって尊いなら、私たちは彼の出現を愛します。IIテモテ4:1 私は神の御前と、...キリスト・イエスの御前で、彼の出現と彼の王国によって、厳かにあなたに命じます。...8 義の冠が私のために用意されているのです。かの日には、義なる審判者である主が、それを私に授けてくださいます。私だけではなく、主の出現を慕ってきたすべての人にも授けてくださいます。

今日クリスチャンの間では、主の再来に関して多くの話があります。しかし、主イエスが戻って来るとき、あわれみ深い神として、あるいは恵み深い救い主としてではなく、義なる裁き主として来られることを認識している信者は多くありません。クリスチャンは、自らを準備してこの裁き主の御前に立つようと警告され、励まされるべきです。私たちの間の多くの人がこの暗い時代に負担を取り上げて、そのような厳粛な命令を主の民にもたらすことを、私は望みます。私たちはみな神の御前と主イエス、すなわち生きている者と死んだ者を裁く方の御前で、この命令を受ける必要があります。主は戻って来るとき、すべての、信者と未信者の両方の裁き主となられるという事実を、私たちは宣言しなければなりません。マタイ25章によれば、主のしもべたちはみな彼に言い開きをしなければなりません。主は「よくやった、良い忠信な奴隷よ」(21節)と言われるか、「邪悪で怠惰な奴隷よ」(26節)と言われるかのどちらかです。主は義の中で、私たちが褒賞を受けるかどうかを決定されます。

OL2:主の出現、彼の再臨は、私たちにとって警告、励まし、奨励です。私たちは主の出現を愛する生活をすべきです。このことによって私たちは落胆せず、最後まで忠信であり続けることができます。IIテモテ4:18 主は私を...彼の天的王国へと救ってくださいます。その方に、栄光が永遠にわたってありますように。**OL3:**主の出現を愛することは、今の世(時代)を愛することと相対します。時代は、サタンのこの世の体系の一部分、一区分、一面です。それはサタンによって利用されて、人々を強奪し占有し、神と神のご計画から彼らを引き離します。

OL4:主の出現を愛することは、私たちが主を愛しており、今日、主のために生きていることの証拠です。ですから、それはまた、私たちが主の褒賞を受けるための条件となります。**OL5:**主の出現を愛することは、私たちが正常な生活をすべきでないということを意味するものではありません。そうではなく、私たちが主の出現を愛すれば愛するほど、今日ますます正常な生活をする必要があります。Iテサロニケ1:10 また、神が死人の中から復活させられた御子、すなわち、まさに臨もうとしている激怒から私たちを救うイエスが、天から来られるのを待っているのかを言い広めているのです。

主の再来に対する願いを、彼に祈り、「主イエスよ、来たりませ!」(啓22:20)と呼び求めて表現することができます。私たちが常に彼の来臨を呼び求めるべきです。

適用: 奉仕者編

主は私たちに、いつ戻って来られるのかを知らせませんでした。従って、信者は日々目を覚ましている必要があります。信者にとって、主の再臨は警告、励まし、奨励です。

警告: マタイ25:11 「主よ、主よ、開けてください!」と言った。12 しかし、彼は答えて言った、「まことに、私はあなたがたに言う。私はあなたがたを知らない」。13 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時が分からないからである。...30 この役に立たない奴隷を、外の暗やみに放り出せ。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりする。

警告と言うのは、勝利者にならなければ、主によって否定され、暗闇に放り出され、泣き叫んだり歯がみをしたりするようになるからです。この暗闇は、千年王国の主の臨在の栄光のある領域の外の暗やみです。「泣き叫んだり歯がみしたりする」という句は先ず、火の池で滅びる邪悪な人に用いられています。信者は火の池に行き滅びることはありませんが、1000年間、暗闇に行くことは相当な苦しみを伴うはずです。

励ましと奨励: 21 主人は彼に言った、「よくやった、良い忠信な奴隷よ。あなたはわずかな事柄に忠信であった。私はあなたに多くの事柄を管理させよう。あなたの主人の喜びに入りなさい」。FN「わずかな事柄」:この時代における主の働きを表徴します。FN「多くの事柄」:来たるべき王国での責任を表徴します。FN「管理させよう」:来たるべき王国で治める権威を表徴します。FN「あなたの主人の喜び」:来たるべき王国での主の享受を表徴します。これは内側の満足であって、外側の地位ではありません。主の喜びにあずかることは、最も大きな褒賞であり、王国での栄光と地位にもまさります。

主の再臨は、信者に対する励ましと褒賞です。あなたは、世の中で物質的に豊かであっても、又は高い地位についていても、これらの事柄はあなたが勝利者になるかどうかとは関係がありません。あなたが勝利者になるかどうかは完全に、**①**生活の中で神・人の生活を訓練し、命において成長しているかどうかと、**②**奉仕において忠信で、靈的商売において儲けているかどうかにかかっています。姉妹の証し:主の再臨は、私の奉仕の励ましです。奉仕において、失望することや弱くさせられることがあります。主が間もなく再臨することを思うと、励まされ、強められます。私は特に詩歌756が好きです。

- 1 わが王はさいりんし、万ぶつは復こうし、
宇ちゆうはあがなわれ、すくい完成する!
われはくものなかの 主のあしおと聞き、
主の栄光のひそかな あらわれを見る。
- 3 ころ、もう天にあり、目はただ主、見つめ、
くちは主に会うこと、ひたすらかたる。
主のさい臨は間ぢか、それはわれのため;
主のやくそくは不変、かならず成就す。
- 6 もはや千万のひとも、われをさまたげず;
路上のいばらさえも、わがえきとなる。
ころ、れい、復興せよ、この世を去らせよ;
いのちの主よ! 来ませ、われ、なれを待つ。

祈り:「おお主イエスよ、主は再来されますが、それがいつであるかは知らされていません。それは私が勝利者になるための警告、励まし、奨励のためです。勝利者になれなければ、主から否定され、暗闇に放り出されてしまいます。毎日目を覚まして正常な神・人の生活を持ち、主から与えられた新人を忠信に牧養し、主の来臨を待ち望みます。主イエスよ、来たりませ!」